「あまみエフエム　ディ！ウェイヴ」放送原稿〈１０月１９日（金）放送分〉

テーマ「郷土の偉人」

あまみエフエム　ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は，毎月第３週に，奄美にゆかりのある作家や偉人を紹介するシリーズ「郷土の偉人」の７回目です。

今朝は，８月から３回にわたってお送りしています，「郷土の先人に学ぶ」に紹介されている３人の女性の中から「奄美の復興と婦人会の発展に尽くした半生　基（もとい）　八重（やえ）」を紹介します。

基八重さんは，１９００年（明治３３年）６月，東京都赤坂区（現在の港区）で，男二人女五人の兄弟姉妹の真ん中に生まれました。そして，青山師範附属小学校，東京府立第三高等女学校を卒業され，大正１０年，東京で勤務していた基俊夫（もといとしお）さんと結婚しました。

結婚当初は，東京を生活の根拠とする予定でしたが，夫の俊夫さんの実家を守っていたお姉さんが老齢になったため，郷里である名瀬に帰ることになったのです。
それは，大正１３年のことでした。

その後，お姉さんが亡くなり，夫である俊夫さんが，昭和５年に亡くなられ，以来名瀬の小金久（こがねく）で，子どもたちの養育に専念することになりました。また，亡くなったお姉さんが仏教婦人会長を務めていた関係で，仏教婦人会や，名瀬町婦人会活動に従事するようになっていきました。

基八重さんと言えば，まず，奄美大島の日本復帰運動に際し，アメリカのルーズベルト大統領の奥様に直訴して，復帰を促進させる原動力になったことを挙げなければなりません。

「母看（ははみ）ると　旅券（りよけん）を乞（こ）いて　行く旅に　復帰悲願（ふつきひがん）の　資料秘（ひ）め持（も）ちし」

この歌からうかがえるように，東京に住んでおられる老母の看病にかこつけて，旅券の発行を受け，奄美大島の日本復帰の嘆願書（たんがんしよ）をたずさえて，昭和２８年６月６日，金十丸（かなとまる）で名瀬港を出港しました。

当時の記事によりますと，６月１０日のルーズベルト大統領夫人との会見には，九州大学の大島直治（おおしまなおはる）教授（名瀬出身），同じく操担道（みさおたんどう）医学博士（沖永良部出身），同じく森周六（もりしゅうろく）農学博士（瀬戸内町出身）らが同行しました。

午後から催された講演会の会場でルーズベルト大統領夫人と会見を行い，次いで雅叙園（がじよえん）ホールで開かれていたお茶の会に出席しました。そこで奄美大島復帰に関する陳情（ちんじよう）が大島教授の流暢（りゅうちよう）な英語で始まりました。

「すでに車中で，鹿児島県の重成知事より話があり，ご承知のことと思いますが，現地奄美から荒波を越えて，あなたにお会いするため，二人の女性が来ています。」と，改めて基会長らが紹介されました。

ここで，奄美大島連合婦人会会長，基八重さん，同副会長の橋口初枝さんの二人が，「元鹿児島県大島郡即時復帰請願書」を差し出し，復帰促進への協力を訴えました。

ルーズベルト大統領夫人は，「私もこのことは深く考えています。アリソン大使にも手紙を出してあります」と，二人に手をさしのべられました。女性同士の固い握手でした。
以上が基八重さんらとルーズベルト大統領夫人との会見の様子です。

２ヶ月近く経過した昭和２８年８月８日，奄美大島返還のニュースが，ダレス長官の声明となって発表されました。

奄美大島の日本復帰と同時に，今まで手つかずのままになっていた市町村の施設等に予算がついて，各自治体が本土並みを目指して動き始めました。名瀬市では，まず市営住宅を建設し，住宅事情を良くしたくても，広い敷地を確保しなくてはなりません。

そこで，市長は基八重さんに，基家伝来の俊良俣一帯の田畑を市に譲渡してもらうように頼みました。基さんは，多くの困難を排除し協力を約束し，市に譲渡できるように尽力してくれたのです。

国や県も名瀬市と同様に，真名津町及び小俣町の広大な土地を譲渡してもらい，職員住宅を作り，奄美大島の復興事業は始動していったのです。

このように，基八重さんは奄美大島日本復帰実現に貢献し，基家伝来の広大な土地を名瀬市及び鹿児島県，国に譲渡することに力を尽くし，奄美群島日本復帰後の復興の原動力となったのです。

この項の執筆者，神田タツさんは，「これらの基家伝来の土地に建てられた建物をみるたびに基八重さんの均整のとれた容姿と，気品あふれるお顔，教養をにじませた物腰を思い浮かべながら，一人の女性がなしとげた偉業を思い起こすとともに，深い感謝の念を禁じ得ません。」と結んでいます。

今回は，『郷土の先人に学ぶ　第５集』から「奄美の復興と婦人会の発展に尽くした半生　基八重」を紹介しました。

字数の制限から，基八重さんの人柄や婦人会長としての活動の様子など紹介しきれないところもありましたので，ぜひ一度手にとってお読みいただきたいと思います。

以上，鹿児島県立奄美図書館でした。